

3 バラのハイラック仕立てにおけるナックル管理法

ねらいと成果

バラのハイラック仕立て法(図)は作業性がよく、周年出荷が可能で、またロックウール耕を前提としないことから県内産地では急速に普及しつつある。しかし、新しい仕立て法のため未解明な部分も多い。切り花となる採花枝は、同化専用枝基部に形成される拳形の肥厚部(一般にはナックルと呼称)から発生することから、本試験ではこのナックルの管理技術について検討した。その結果、収量と品質は1㎡当たりのナックル数を20個、その高さを100cmとするのがよく、更新方法は収量増には切り上げ更新、品質向上には切り下げ更新が有効であった。

内容

ナックルの数の実験には「ティネケ」、高さには「ソニア」、更新方法には「ローテローゼ」を供した。場内ガラス温室ベッドに1条植え(株間8cm)で定

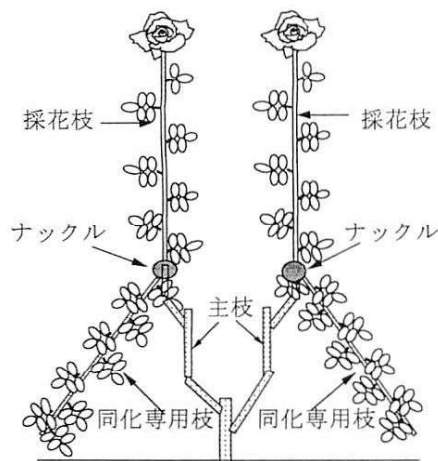


図 ハイラック仕立ての模式図

植後、ピンチを繰り返しながら株をハイラック方式に仕立てた。ナックル管理の実験には表に示すようにそれぞれ3区の試験区を設けた。実験は土耕で行い、施肥は窒素、リン酸、カリそれぞれ1a当たり年間10、5、4kgを追肥中心に施し、暖房は冬季最低気温15℃を維持するように加温した。

切り花本数はナックル数が20個/㎡区で最も多くなり、最も少なかった15個/㎡区の1.37倍になった。ナックルの高さは100cm区で最も多くなり、最も少なかった50cm区の1.29倍になった。ナックルの更新方法は切り上げ方式区で最も多くなり、最も少なかった無更新区の1.60倍になった(表)。単位面積当たりに得られた切り花の総重量は切り花本数と同様の傾向を示した。品質を評価する上で最も重要視される切り花長は1㎡当たりのナックル数が20個区と25個区が同程度で長くなった。高さは100cm区が切り花のボリュームを示す指標となる切り花重/切り花長値が若干低かったものの長くなった。更新方法は切り下げ区で長くなった(表)。

以上の結果、切り花本数と切り花長を考慮して、1㎡当たりのナックルの数は20個とし、その高さは100cmとするのが効果的であった。ナックルの更新方法は収量を重視すれば切り上げ更新、品質を重視すれば切り下げ更新とするのがよかった。

普及上の注意事項

ナックルが高くなると仕立てに要する期間が長くなるために無収穫期間が長くなること、収穫や芽かき等の作業性が悪化することを考慮する。また、ナックルの更新中は無収穫になるので、単価の安い時期に行うとよい。 小山 佳彦(中央農技・園芸部)

表 ナックルの数、高さおよび更新方法が切り花収量と切り花の形態に及ぼす影響

ナックル管理の試験区と供試品種	切り花本数 (本/㎡)	切り花総重量 (g/㎡)	収量指数		切り花長 (cm)	切り花重 (g/本)	切り花 節数	切り花重 /切り花長
			本数	重量				
数	15	75.0	100	100	63.1	38.3	11.2	0.61
(個/㎡)	20	102.5	137	150	72.4	42.0	11.9	0.58
「ティネケ」	25	93.8	125	137	72.3	42.0	11.4	0.58
高さ	50	106.3	100	100	48.9	25.3	8.9	0.52
(cm)	75	117.5	111	120	53.3	27.4	9.1	0.51
「ソニア」	100	137.5	129	135	57.4	26.4	10.4	0.46
更新方法	切り上げ	90.0	160	168	58.5	28.9	10.1	0.49
	切り下げ	61.3	109	127	64.3	32.0	11.0	0.50
「ローテローゼ」	無更新	56.3	100	100	55.7	27.5	9.8	0.49

注) ナックルの更新は主枝を25cm切り上げあるいは切り下げて実施